

主 題：まだレースは終わっていない
聖書箇所：使徒の働き 20 章 24 節

11/8-21 エルサルバドルへ宣教会議に出席のため出かけました。日本から約 15 時間飛行の距離にある中南米の国のひとつですが、訪問する国のことがよく分からない、また、教会のことをよく知らないということは不安でした。しかし、神はそこでも真実に働いておられます。神は人々を、またすべてのことを導いておられることを実感しました。中南米でも今教会の主流はカリスマです。しかし、この訪問したミラモント・バプテスト教会は私たちと全く同じことを信じています。そして、決して豊かではないこの国の、その教会ですが、世界中に宣教師を送り出しているのです。

今日はこの訪問によって私自身が受けたチャレンジをお証しながら、みことばから学んでゆきます。与えられたチャレンジは「自分の人生をどう終えていくか」ということで、そのことを考えさせられた機会でした。

今日という日をどのように送るのか、これまでの人生に悔いはないか？ご自身で問うてみてください。使徒 20：18-24 にはパウロの証が書かれています。パウロには様々な困難、迫害がありました。そんな中であって、パウロが言ったことを見ましょう。20：22「いま私は、心を縛られて、エルサレムに上る途中です。…」この「縛られて」ということばは、1 コリント 7：39 に「妻は夫が生きている間は夫に縛られています。」とあるこの「縛られて」と同じ意味です。私の心は神と一体となっている、だからどんなことがあっても忠実に生きてゆきたいということです。これは神に対する愛です。わたしたちクリスチャンは神から命令が与えられてます。それは、マタイの福音書の最後に書かれてあるイエスさまの大命令、「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。」です。

1. 伝道

神は私を使って救いのメッセージを語るようにと命じておられます。先のミラモント・バプテスト教会は、まずサンサルバドルで、それからエルサルバドル国内、3 番目はカリブ海周辺、グアテマラの山岳地方のインディアンにメッセージを語ることと聖書の翻訳、4 番目はヨーロッパへ、スペイン、モロッコ、ルーマニア、アルバニア、そして、5 番目はインドへ、すでに準備中の二組が与えられています。今でもパウロのような人たちがこの地球上には多くいるのです。そしてパウロが忠実であったように、彼らも忠実な主の働き人なのです。彼らのメッセージは「この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」(使徒 4：12) なのです。私たちは福音を語るという責任を忠実に果たしているのでしょうか？

2. 教育

弟子をつくること、信仰を助けていくのです。ローマ 14：19「…私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つことを追い求めましょう。」。エペソ 4：29「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。」。これらが弟子作りに必要なことです。

ミラモント・バプテスト教会には学校があります。その上に聖書学校があり、3 年かけて創世記から黙示録まで学びます。それから 2 年の神学校です。そして、牧師、宣教師となって各地へ遣わされて行きます。エルサルバドルは 1979 年から 1992 年まで内戦状態にありました。スペインから独立し、プロテスタントの人口は 5%から 20%になったといえます。

みことばを伝え、ひとびとを教えてゆくこと、それが私たち救われた者の責任です。私たちの日々の生活は救われたあかしを現わすものであるはずですが、神は私のためにすべてを捧げてくださいました。しかし、私たちはどうでしょう？すべてを捧げることに躊躇していないのでしょうか？

マタイ 25：14 からイエスさまは天の御国のことをタラントのたとえを用いて教えておられます。21 節、「よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。」と主人のことばがあります。私たちは神の大命令に忠実であったかどうか問われるのです。恐れなくて福音を宣べ伝えましょう。